

熱戦が行われたラグビーワールドカップでは、フランス代表チームを応援するために、フランスのラグビー専門新聞の『ミディ・オランピック』が紙面で「行け仏」と日本語の漢字で書いて話題となりました。それを見た人は面白いと感じ、「仏」は「仏」つまりブッタ?と疑問に持たれた方もいらっしゃったようでした。ご存知の通り、フランスの漢字表記は、「仏」と蘭の花の「蘭」に「西」と書いて「仏蘭西・フランス」と読みます。ですから、一文字で表すと「仏」つまり「仏」となります。「亜米利加・アメリカ」の事を米国というようにフランスは仏国となるのです。

さて、日本語は基本的に、漢字と平仮名とカタカナで表されます。また、漢字には意味を表す表意文字の使い方の他に、「仏蘭西・フランス」を「仏」と蘭の花の「蘭」に「西」と書くように、音をあらわす表音文字の使い方があります。それらは、仏教の世界でも多く使われています。

例えば、地蔵菩薩や観世音菩薩さまなどの菩薩さまは、インドの古い言葉で「ボーディサットヴァ」といい、それが菩提薩埵と漢字に表記され、後に菩薩と略されたといわれています。

日本に伝わった大乘仏教で菩薩は、四弘誓願を起こして六波羅蜜を修行するとされました。

四弘誓願は四つのお誓い、すべてのものを悟りに渡し、すべての煩惱を断とうとし、仏の教えをすべて学び知ろうとし、悟りにいたる四つの大決心のことをいい、六波羅蜜は、施し与え、戒律を守り、苦難に堪え忍び、真実の道をたゆまず実践し、精神統一をし、真実の智慧を得ること、の六つをいいます。自ら仏道を求め、すべての人々を救い、悟らせる者を菩薩さまと称

『 禅のこころ -曹洞宗- 』

したのです。

また菩薩戒という戒律があります。曹洞宗の僧侶は、お坊さんになる儀式の時、師匠から菩薩戒を授けられます。この時、自らその戒を「能く保つ」と誓いを立て修行に入ります。

僧侶にならずとも、一般の方でも自らがお誓いを立て、戒名を持ち、お釈迦さまの弟子として菩薩の修行を行うきっかけとなる儀式があります。これを授戒会じゅかいえといいます。福井県の大本山永平寺や横浜市鶴見区の本本山總持寺や東京都の本本山永平寺別院長谷寺ちようこくじなどでは毎年、授戒会が行われます。機会をとらえてご参加され、仏教徒としての在り方を見つめ直す貴重な縁にしていきたいものです。

今年も日本各地で自然災害が発生しています。依然として悲しみや不安を抱えている方々があります。共に多くの人々に思いをはせ、いのちを尊び、お互いに慈しむ生活が出来るよう菩薩の心で日々暮らしていきたいものです。

— 終 —